

《第 18 号》「木づかいのススメ」

川井 秀一(京都大学生存圏研究所 所長)

いま、わが国では国産材の利用が滞り、森林の荒廃が深刻になっています。人間の手で植えられてきた人工林は、枝打ちや間伐(間引き)によって健全に育ちます。国産材が売れないために、森の手入れが行き届かず、放置林が増加しているのです。

一方度、日本の木材消費は 8 割以上を輸入材に頼るという極端に状況にあり、その中には違法伐採も含まれています。山林の荒廃は、山崩れや洪水を招き、水資源や生物多様性の確保、地球温暖化防止などの環境機能を低下させます。

このように現在の日本では、少なくとも人工林の場合、樹木を伐採・利用しないことが環境悪化につながっているのです。

したがって、使ってはいけない木材(違法伐木)、使ってもよい木材(持続的に生産された輸入材)、そして、積極的に使うべき木材(国産スギ材)を消費者が賢く見分けて環境に配慮した買い物をし、これを広く普及することが日本の森林を育て、持続的な木材資源を確保することにつながります。たとえば、間伐材を使った身近な製品にカートカン(紙製飲料缶)、封筒、ファイルなどの紙製品があり、これらを積極的に使うことが、国産材の利用促進につながるのです。

日本の森を育てる木づかい円卓会議(日本木材学会主催)は昨年 11 月に「木づかいのススメ」を公表し、以下の提言を行い、木づかい運動を展開しています。

日本で育てた木を遣おう

日本の森を元気にするために

それが持続可能な暮らしを実現する

なお、提言書は日本木材学会の HP(<http://www.jwrs.org/>)から取り出せますので、是非、ご覧ください。

以上